

## 名古屋城検定 平成 28 年度問題例

### 〔上級問題例〕

#### 設問 1

明治 12 年、陸軍省は名古屋城の保存を決定しました。その前年に、築城学の大家であった陸軍大佐が、名古屋城と姫路城の価値を陸軍卿山縣有朋に上申し、大きく貢献したと言われます。

名古屋城と姫路城の保存を上申した陸軍大佐の姓名を答えなさい。

#### 設問 2

慶長 15（1610）年、名古屋城の築城が始まりました。家康は築城にあたって、多くの大名たちに命じて石垣工事を分担させました。天下普請と言われるものです。

名古屋城の普請について、正しいものをすべて選びましょう。

- ① 普請を命じられたのは、すべて西国の外様大名 20 家だった。
- ② 徳川義直の正室春姫の父、浅野幸長も普請を務めた。
- ③ 加藤清正は大天守台や本丸東の石垣工事を担当した。
- ④ 前田利光は堀の石垣工事で、最も広い丁場を割り当てられた。
- ⑤ 福島正則は堀川の開削を命じられたため、普請を免除された。

#### 設問 3

下の写真は、今年の 6 月 1 日から新たに公開された復元本丸御殿の建物内の様子です。板の間には長囲炉裏が設けられ、天井には煙り出しが備えられています。しかし、煮炊きをするためのかまどや流し台などは設置されていません。

この部屋がある建物は何と呼ばれるでしょう。

また、この部屋の役割はどのようなことと考えられているでしょう。



## [上級問題例解答と解説]

### 設問 1

#### 正解 中村重遠

解説 文明開化にともない「江戸時代の物」、「日本的な物」を破壊する旧物破却の風潮が日本全国に広がりました。それに異を唱えたのが当時、陸軍大佐で建築・修繕の担当をしていた中村重遠です。重遠は優れた建造物である名古屋城と姫路城の保存を訴え、明治11（1878）年、陸軍卿・山縣有朋の働きかけにより保存が決定しました。

### 設問 2

#### 正解②④

解説 天下普請の命令は、元豊臣家臣の外様20家に下りました。加藤清正は天守台のみを担当。丁場（作業場）は、各大名の石高に応じて割り当てられたので前田家が最も広い丁場を担当しました。福島正則は堀川の掘削だけではなく、名古屋城の普請も担当しています。

### 設問 3

**正解** 「下御膳所」、料理の配膳や温め直し。

**解説** 名古屋城本丸御殿には、食事に関する部屋として「下御膳所」、「上台所」、「上御膳所」があります。「下御膳所」は表書院へ料理を届けるための部屋。「上台所」は、将軍の料理を作る専用の台所。「上御膳所」は、上台所で作った料理を上洛殿へ配膳したり、温め直す部屋です。